

## これからの会議・研修のあり方、つくり方

今、学校現場では、次期学習指導要領等に向けて、教師にも、「アクティブ・ラーニング」の視点に基づいた教師同士の日常的な学び合いが求められている。職員会議や教員研修などで、教師集団が知見を結集し、学校をチーム化させる具体策を、現場の声や実践事例を交えて紹介する。

監修 日賀優一

「答えが1つではない問い」を考える高校生向け対話型ワークショップを開催する「三四郎の学校」事務局長。本誌2016年6月号で紹介した長崎県立諫早高校での取り組みを始め、高校教師や社会教育従事者などを対象とした学びの場づくりにも携わる。

## 実践事例

# 生徒とともに 未来を考える教職員研修

——滋賀県立水口東中学校・高校の教職員研修リポート——

今回は実践事例として、2018年8月に滋賀県立水口東中学校・高校で行われた教職員研修を取り上げます。同研修の最大の特徴は、生徒も参加し、教師と同じグループのメンバーとして、「これからの社会と、そこで求められる力」について語り合いながら、自分がすべきことを考えた点に

あります。そこには、未来の社会の主人公である生徒が目の前にいることで、教師の思考が活性化すること、そして対話の中で自分の考えを深める楽しさを、教師だけでなく生徒にも味わってもらおうというねらいがありました。実践性に富んだチャレンジングな研修内容をレポートします。

## 正解が分からない問いを 生徒とともに語り合う

今回の教職員研修の企画責任者は、教務課主任の宇野正隆先生です。宇野先生は、2018年度から同校の教務課主任を務めることになったのですが、自分に課した最大のミッションが、「8月の教職員研修をよりよいものにする」というものでした。教職員研修がマンネリ化し、ややもすると教師にとつて気の進まない時間になることは、同校に限ったことではありません。宇野先生は、「外部講師を招いたインプット中心の研修ではなく、先生方がわいわいと楽しく語り合う研修にしたい」「ささやかなことでもよいので、2学期からの変化・変容につながるものにしたい」と考え、研修内容の検討を進めていきました。

そして、「生徒とともに学校の未来を考える」をテーマに、結論を1つに絞り込まない拡散型の90分間の研修を企画しました。これからの社会がどのように変化し、そこではどのような力が求められるのか、正解は誰にも分かりません。だからこそ、未来を生きる当事者の高校生が何を考えているのか、耳を傾けることが、未来に対する

イメージを広げながら、これから求められる指導を具体的に考えるために有効であると、宇野先生は考えたのです。また、答えが1つとは限らない問いに向き合う教師の姿を生徒に見せることにも、大きな価値を見いだしました。そして、拡散型ではありませんが、参加した先生方、そして生徒たちに、「新学期に向けた目標や新しいチャレンジを考えてみる」ことを求める内容にしました。

次ページからは、90分間の研修の概要と、研修に参加した教師、生徒の振り返り、そして研修を企画した宇野先生とそのチャレンジを見守った校長先生の声をご紹介します。

教師50数人に、生徒会の生徒10数人、合計およそ70人が、8月の教職員研修に参加しました。

## 研修の流れ

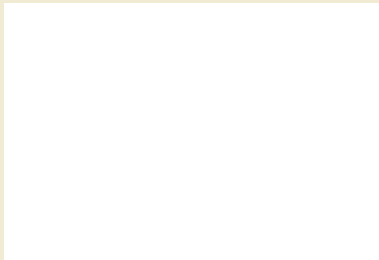
約10分

### 各グループ内で自己紹介

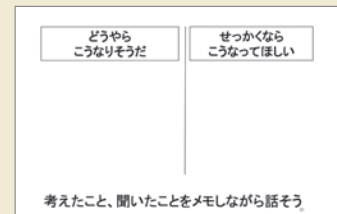
各グループは、4、5人の教師と1人の生徒、計5、6人で構成されました。グループはくじ引きで組んでいきました。アイスブレイクとして、各グループ内で簡単な自己紹介を行いました。①名前、②今の気持ち、③この夏の思い出の3項目について、1人1分以内を目安に話しました。

約20分

### グループでの話し合い 「2030年は どんな社会？」



次に、「生徒が第一線で活躍する年代となる2030年の社会は、どのようになっているのか」について、20分程度各グループ内で語り合いました。その際、AIやグローバル化など、普段から話題になっているような未来予測にとどまらず、想像力を働かせて、自由に発言してもらえるように、「どうやらこうなりそうだ」「せつかくならこうなってほしい」という2つの観点で、未来について語ってもらうようにしました。また、語り合いに先立って、教師と生徒が年齢や立場にかかわらず、できるだけ自由に意見を述べられるように、「話し合う時の3つの約束」を説明しました。



未来について、2つの観点で自由に語り合いました

#### 話し合う時の3つの約束

##### ①「ひらめき」を大切に

思ったこと、感じたことをそのまま言葉にしましょう！  
あなたの何気ないつぶやきが、ほかの誰かの新たな気づきにつながっていくかもしれません！

##### ②「疑問」を大切に

本当に？なぜ？ほかには？など、ほかの人の意見や自分の考えに対して疑問をぶつけて、さらに考えを深めたり、広げたりしてみましょう。

##### ③「沈黙」を大切に

沈黙は新しい発見の3秒前かもしれません。黙っている人がいても、怠けているのではなく考えているのですから、発言を急かさず、その人のペースで考えさせてあげましょう。

約50分

### グループでの話し合い 「未来を生きる力とは」



2030年の社会についてイメージを広げた後は、「そのような未来を生きるためにはどのような力が必要になるのか」について語り合いました。まず、各グループ内で10分程度語り合ってから、その後、参加者が席を移動して、新たにグループを作り直して、さらに語り合いを続けました。そして、10分後、また元のグループに戻って、自分がどんな意見を聞いてきたのかを、グループのメンバーに紹介しながら、さらにテーマについて語り合いを深めました。

約10分

### 行動宣言 「2学期からすべきこと、 したいこと」

研修を振り返りながら、教師、生徒が「未来を生きる力を育むために、私が2学期からすべきこと、したいこと」を振り返りシートに記入し、2学期の行動宣言としてグループ内で共有しました。そして、研修がその場限りのものにならないように、2学期を迎えたら、各先生が研修で宣言したことに実際に取り組んでいるかどうかについて、研修に参加した生徒が、自分たちの所属したグループの先生のところに聞きに行くようにしました。

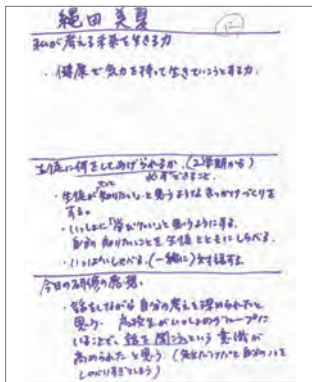
## 「多忙だからこそ、私たち教師には「原点」に立ち返る場が必要

8月の教職員研修に対して最初は「忙しいのにまた研修か」と、あまりよい印象を持っていませんでした。ただ、4、5年ほど前、「私たちはどのような生徒を育てたいのか」というテーマで、先生方とざっくばらんに語り合う研修があり、それはとても楽しかった記憶がありました。そのため、今回の研修はいつもと違うかもしれないと、少し期待感も持っていました。

教職員研修に生徒が参加することについては、先生一人ひとりが刺激と学びを得るという意味で、本来にプラスになるのか、私も分かりませんでした。ただ、生徒と未来を語り合う中で、教師と生徒という立場の違いが気にならなくなってきたことに気がつきました。未来を想像しながら、学ぶ



滋賀県立水口東中学校・高校  
**縄田美夏** なわた・みか  
 教職歴20年。同校に赴任して7年目。総務課。



縄田先生がグループの教師、生徒に宣言した内容が書かれたシート

ことの大切さについて言及し、「私も、これからも学び続けていくよ」と生徒に語った時、未来をとともに生きる仲間として語り合っていると実感しました。生徒も先生も、時間の経過とともにだんだん話し声が大きくなり、もつとたくさん話したいという気持ちで研修を終えました。職員室でも「面白かったね」と話す先生が多かったです。私自身、未来について先生方や生徒と話している中で、やりたいこと、学びたいことがたくさん出てきて、研修の最後に、2学期から取り組みたいことをみんなの前で宣言しました。生徒を交えた研修でしたが、教師としての

自分を心地よく深めることができたいと思います。2学期になって、同じグループだった生徒が「あれからどうですか」と様子を聞きに来てくれた時に、「私も頑張っていますよ」と話す時、うれしそうな笑顔を見せてくれました。私も、決意を共有した仲間が得られたような、温かな気持ちになりました。今回のように、ざっくばらんに語り合うような研修では、参加者全員で1つの結論を共有することはありません。1つの結論に収束しない研修に、「ただおしゃべりしているだけでは？」と違和感を持つ方もいらっしゃるかもしれませんが、しかし私は、ざっくばらんに語り合うことで、教師として大切なこと、原点を一人ひとりが確認できていたと思うのです。

教師になったばかりの頃、先輩先生の教育に対する熱い思いを聞くような機会はたくさんありましたが、最近はずいぶん減っています。だからこそ、先生同士がざっくばらんに語り合う時間の重要性が高まっていると思います。「忙しくてそんな余裕はない」のではなく、普段余裕がないからこそ、私たちにとって参加する価値がある、そんな研修だったと思います。

◎普段、今のことがばかりが気になって、未来について考えることがありませんでした。先生と未来について語り合うことが新鮮でしたし、普段あまり話をする機会のない先生方の意見を聞くのも楽しかったです。先生と話す中で、これからはコミュニケーション力が大切だと分かり、今まで話したことがなかった先生にも積極的に話しかけるなど、自分を変えてみようと思いました（1年生・女子）。

◎研修では先生方と楽しく話すことができました。いろいろな人と話すことで、自分の考えが深まる楽しさを味わえた気がします。自分とは違う経験をしてきた人と話すことで、自分の新しい可能性に気づけることがわかりました。2学期からは、自分から積極的にいろいろな人と話をしていきたいです（1年生・女子）。

生徒も「先生たちとちゃんと話せるだろうか」と思いながら研修に参加しましたが、研修後はみんなが「貴重な経験ができて楽しかった」と振り返っていました。

## ちよつとした配慮と仕かけで 研修はもっとよいものにできる

教務課主任として、教職員研修に新しい風を入れた。その風を起こすのが、私たち教師が一番大切になっている生徒であれば、きっとその研修は先生方にとって刺激的で大きな学びがある場になるはずだと考えました。

ただ、先生方の中には、「研修に生徒が参加すると、自分たちは生徒に対して『君たちはこうすべきだ』と、指導になってしまい、教師にとっても生徒にとっても前向きな学びにならないのでは」と不安を抱く方もいらっしゃいました。また、研修に参加する生徒たちも、「先生とちゃんと話ができるのだろうか」と心配していました。



滋賀県立水口東中学校・高校  
**宇野正隆** うのまさたか  
教職歴25年。同校に赴任して12年目。教務課主任。

すが対話型のワークショップも開きました。実際の語り合いでは、気軽に話せるテーマで自己紹介をしてもらうなど、アイスブレイクを丁寧に行いました。さらに、研修での気づきが個々の変化や変容につながっていくように、夏季休業明けの少し落ち着いた金曜日をねらって、生徒が、同じグループだった先生に近況を聞きに行くようにしました。先生方にも、そのような問いかけが生徒からあるかもしれないことを伝えました。そのようなちよつとした仕かけや配慮の積み重ねで、研修の質が高まったと思います。

研修では、緊張気味な生徒を安心させようと、いつも以上の笑顔で生徒に接する先生方の姿が印象的でしたし、その思いやりは、先生同士の間にも温かな空気として流れていたように思いました。研修後、先生方から「面白かった」「楽しかった」という声をかけていただきました。先生方が元気になる研修をつくれたのなら、うれしいです。

## 対話を通じて改めて分かった 先生方の豊かな潜在能力

本県は、普通科高校の通学区域全県一区制度を導入しており、水口東中学校・高校も地域の期待に応える学校として、魅力化を進めることが求められています。今回、宇野先生が企画した教職員研修も、学校のあり方を考える突破口として位置づけました。



滋賀県立水口東中学校・高校  
校長  
**岨中貴洋** そまなかたかひろ  
教職歴35年。同校に赴任して1年目。

今回の研修は、先生方にとっては、生徒とじっくり話すという意味でも

価値がありました。教師という立場ではなく、未来を生きる一人の社会人として考えを語り合うといった機会にもなりました。参加した先生方の様子を見て、先生方が個人としての思いを自由に語れる場や雰囲気をつくっていくことで、教師としての潜在能力を余すところなく引き出し、学校総体として、これからの教育のあり方を柔軟に考えられるようになるのではないかと感じました。今後は、先生方が保護者、地域の方々との対話を通して、学校と自身のあり方を考える場をつくっていきたいと思っています。

### 滋賀県立水口東中学校・高校

◎併設型中高一貫校。文部科学省「スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト」校。探究学習や高大連携、国際交流などの取り組みを通じて、主体的に学ぶ態度を備え、世界の人々と協働して問題解決することのできる人材の育成を目指す。

設立 1975(昭和50)年  
形態 全日制/普通科/共学  
生徒数 1学年約240人

#### 2018年度入試合格実績(現浪計)

国立大は、東北大、筑波大、横浜国立大、京都市大、神戸大、神戸市外国語大などに57人が合格。私立大は、慶應義塾大、中央大、早稲田大、同志社大、立命館大などに延べ588人が合格。

URL <http://www.e-minakuchi-h.shiga-ec.ed.jp/>